

令和7年度第1回郷土文化館協議会 概要

1 日 時 令和7年10月21日（火） 午後2時～午後4時

2 会 場 小田原市観光交流センター イベントスペース

3 出席者

（1）郷土文化館協議会委員

田尾委員長、山下副委員長、秋山委員、大西委員、篠原委員、田鴻委員、星野委員、山田委員、川崎委員

（2）市事務局側

柳下教育長、大木部長、湯浅副部長、蓑宮生涯学習課長、岡田係長、土屋係長、吉野主事、喜田主事捕

4 会議の概要

教育長から各委員へ委嘱状を交付し、教育長の挨拶の後、異動・新入職員が自己紹介を行った。その後、委員長・副委員長の選出を行い、委員長は田尾委員。副委員長は山下委員となり、議事についての進行は田尾委員長が行った。

・議題5 報告事項（1）「令和6年度 郷土文化館事業について」（資料1～6）

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

ア「令和6年度 郷土文化入館者数」（資料1-1）について

- ・11月以降の入館数が増加しているが要因はなにかという質問が委員からあり、暑さが収まるなどの気候の影響が大きいと考えていると事務局から回答をした。
- ・城址公園内で行われるイベントに合わせて、関連するイベントを開催すると、来館者が増えるのではないかという意見が委員から出された。

イ「令和6年度 学校利用状況」（資料1-3）について

- ・三の丸ホールなどは中学生の利用が多い。それをを利用してホールで出張展示を行う予定があるのかという質問が委員からあり、他所管と連携できるように検討すると事務局から回答をした。

ウ「令和6年度 学校利用状況」（資料1-4）について

- ・出張授業の内容と対応した児童数についての質問があり、内容については小学校3年生は昔の道具、小学校6年生はその地域の歴史と民俗で当館が所蔵する資料を職員が持参して授業を行っていると説明した。児童が多い学校については、対応する職員を増やしたり、回数を2回にするなど対応をしていると事務局が回答した。

- ・支援学校での授業内容についての質問があり、事前に学校の先生や生徒と相談をしながらテーマを設定し、当館が所蔵する資料を持参し、授業を行っていると事務局が回答した。
- ・小学生の利用だけでなく、高校生や大学生の来館者が増えるようにアウトリーチ活動を継続してもらうことが大事だという意見が委員より出された。
- ・中学生の利用が少ないので、来館を促すような活動を行ってほしいという意見が委員より出された。
- ・支援学校に出張授業を行うに至った経緯について委員より質問があり、博物館基本構想の中で、ユニバーサルデザインを謳っており、新しい博物館での活動に、役立てるため行っていると事務局から回答した。
- ・出張授業で学芸員を招待したことがある。授業参観と合わせて行い、児童とその親にも小学校周辺の歴史などを知ってもらう機会を作ったという意見が委員より出された。

エ 「令和6年度 資料調査・収集・管理等業務 実施概要」（資料4-1）について

- ・令和6年度の収集点数と収蔵庫の空き状況について委員より質問があり、令和6年度に収集した資料は、棚1～2台分である。収蔵庫の空き状況からすると、切迫していると事務局が回答した。
- ・受け入れを断った方と揉め事は起きなかったかという委員より質問があり、受け入れは複数の学芸員で相談して判断し、基本的に持ち主がこれからも保管している方向で促し、ご理解を得て、管理できなくなった場合に受け入れを行うこととしていると事務局から回答した。
- ・去年度の会議資料に比べて、資料一覧が見やすく良いという意見が委員から出された。

オ 「令和6年度 博物館構想推進事業における取組概要」（資料6-1）について

- ・風土や歴史ある小田原は、現在にも多くの資料が残されている。これら全てを博物館資料とするのは収蔵スペースの関係上困難である。そこで、寄贈の受け入れができない資料については、デジタルアーカイブを活用して記録していくと良い。また、日常的に難しいのであれば文化庁の補助金を活用してはどうかという意見が委員から出された。
- ・デジタルアーカイブの拡充やコンテンツの充実化させるために、市の施設で文化財資料を所管する部署と連携すると良いのではないかという意見が委員から出された。

・議題6 報告事項（2）「令和7年度 郷土文化館事業について」（資料7～12）

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

ア 「令和7年度 令和7年度上半期（4月～9月）」（資料10-1）について

- ・石造物調査の回数について委員から質問があり、野外調査のため気温などを考慮して調査を中止している場合があると事務局から回答をした。
- ・ボランティア活動は、募集時期や新規募集があった場合、その方への講習についての質

問が委員よりあり、募集は隨時募集しており、経験豊富なボランティアが新人を教えるなどしていると事務局から回答をした。

- ・ボランティア活動は、どこで行っているのか委員より質問があり、館にスペースが無いため、UMECO の会議室を借りるなどして対応をしている事務局が回答した。

イ「令和7年度 令和7年度上半期（4月～9月）」（資料10-2）について

- ・各分野でデジタルミュージアムとの連携を行っていると思うが、実績と現状でデジタル化している資料とできていない資料の点数を把握しておくと、今後の補助金獲得などの場面で役に立つと思われるという意見が委員より出された。

ウ「令和7年度 令和7年度上半期（4月～9月）博物館構想推進事業における取組概要」（資料12-2）について

- ・デジタルミュージアムのアクセス数について、閲覧者が小田原とどのような関係なのかがわかるアンケートを行うと、今後の運営に生かせるデータが積み上がると思われる」と委員から意見が出た。

・議題7 協議事項(1)「令和7年度下半期 郷土文化館事業について」（資料13～17）

このことについて、会議資料に沿って事務局から概要を説明し、次のような討議が行われ、承認された。

ア「令和7年度下半期（10月～3月） 展示事業実施計画案（資料13-2）について

- ・資料収集後、調査を行い、すぐに展示を行うことは、大変であったと思う。とても素晴らしいと思う。展示期間が長いこともあるので、他の委員も見学されたらどうかと委員から意見が出た。
- ・松永耳庵に関する資料を常に収集していたことが実ったと思われると委員から意見が出た。

イ「令和7年度下半期（10月～3月） 施設管理・整備活用関係業務実施計画（案）

（資料13-2）について

- ・郷土文化館はLED化を行ったのかという質問が委員からあり、施設のLED化を行うための補助金は設置後5～10年ほど建物を維持していくなければならない縛りがある。その期間まで老朽化した施設を維持するかという検討が必要なので今回は対象外としたと事務局から回答をした。
- ・事務室や建物の状況は委員も共有したほうが良いので、このあと展示見学する際は案内をしていただきたいと委員より意見があった。
- ・収蔵庫における照明や温湿度の管理はどうしているのかと委員より質問があり、松永記念館の収蔵庫では温湿度は管理している。郷土文化館の収蔵庫においては、温湿度や照明については管理を行っていない状況であると事務局から回答をした。
- ・蛍光灯は年々、購入価格が高騰している。この面から自前で補助対応で行うより、LED

D化を行うほうがコストを抑えることが可能かもしれないと委員より意見があった。

ウ「令和7年度下半期（10月～3月）　博物館構想推進事業における取組計画（案）

（資料17-1）について

- ・講演会で、近隣の博物館から講師を呼ぶようだが、どこの博物館を呼ぶ予定かと委員より質問があり、茅ヶ崎市博物館を想定していると事務局より回答をした。
- ・講演会で呼ぶ場合は、小田原市と同様な条件（人口規模や城下町を基礎とした都市の形成など）である長野県上田市などを参考に声をかけてはどうかと委員より意見が出された。

5　その他

- ・事務局より、第7次小田原市総合計画第1期実行計画について、意見を広く集めている状況を説明し、意見がある委員に、11月11日（火）までに郷土文化館までメールで送付するように伝えた。

以上をもって議事を終了し、郷土文化館に移動し企画展「広報紙でタイムスリップ！昭和の小田原へ」の見学と事務室の視察を行った。